



第2回住民ワークショップ開催記録

開催概要

開催日時 令和8年9月12日(土) 10:00～12:00

開催場所 高城ふれあいセンター

参加者

- ・住民参加者 13名(高城地区9名、北谷地区4名)
- ・その他 8名(内 鳥取大学 学生6名)
- ・倉吉市企画課 3名 ・株式会社バイタルリード 3名

次第

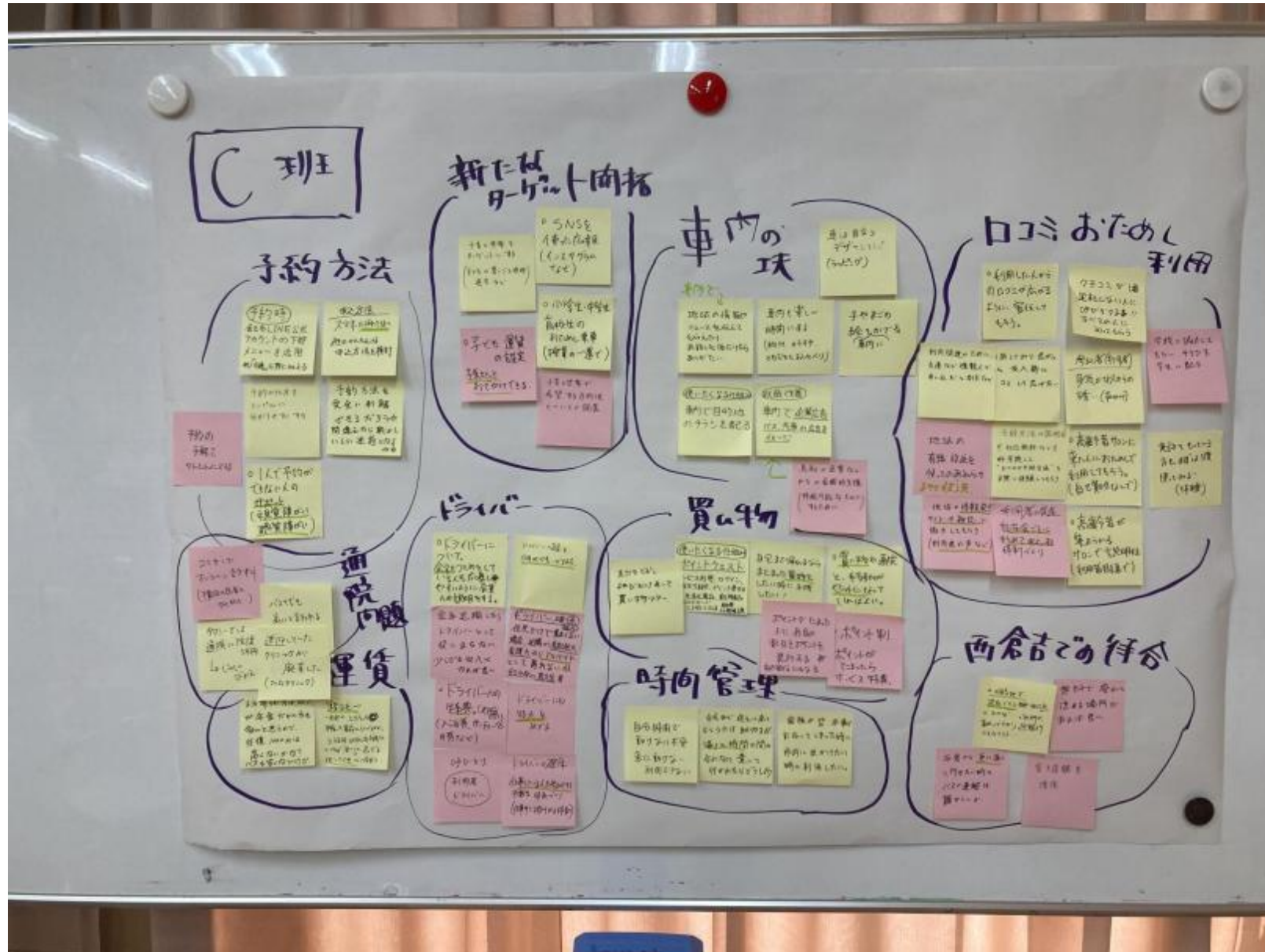
1. 開会
2. 挨拶・趣旨説明
3. 第1回ワークショップのふりかえり
4. 資料に沿って説明
5. 地域住民とのワークショップ
【テーマ】① “おでかけ共助交通”を使ってもらうための工夫
②使ってもらうための工夫を実現するために必要なこと(もの)
まとめ (各グループの発表)
6. 閉会の挨拶
7. 閉会

当日の様子









ワークショップで出た意見

Aグループ(北谷地区)

分類	“おでかけ共助交通”を地域の人々に使ってもらうための工夫を考えよう	使ってもらうための工夫・アイデアを実現するために必要なこと(もの)を考えよう
説明会	・3年前から実施している智頭町の視察「のりりん」 ・先行の関金地区の(視察)講演 ・各集落のサロン等の中に入り説明して行く ・各公民館毎に説明会を開催 ・住民説明会	・先行事例の「視察会」 実際に利用してみる(体験) ・地区単位で日にちを分けて体験をしてもらう ・自分で体験し問題点をさぐる ・自治会単位くらいでの丁寧な説明や話し合い ・市役所主催の「住民説明会」 ・地域の理解と協力 協力者を多くつくる事 ・住民の声「アンケート」
使い方	・中学生・高校生の通学に使えるような内容に ・買い物した後に運ぶのが負担に 買い物補助 ・飲みに行く時 ・自宅から駅やバス停まで ・美容院	・まるごうにも行ってほしい
不安なこと	・共助交通[マップ(のり場停)・サービス・利用の仕方 etc.] ・(たまたま)一つの便に多数予約が入ってしまった時 ・同じ時間に(利用者が)重なってしまった場合はどうするのか ・乗り合う人数を知りたい ・予約の時間がどうしても調整できないとき ・中学生はスマホを持って登校していない。学校の協力は？ ・帰れなくなった場合は？ ・通院の所要時間が読みづらく帰りの予約が心配	・(帰り)中学校・高校に協力してもらい、生徒が予約できる体制を作ってもらう ・中学生の通学利用について中学校の協力があるとよい
その他の意見	・統一的・全体的・長期的に考えてICT化を推進することでコミュニケーションを活性化 ・用事に利用するだけでなく、楽しいおでかけ企画もあるとよい ・地域住民があつまって会話がたくさんできる状況がほしい	・短大と協力 ・LINEを使った予約 ・現在の予約状況がみられるようにする ・予測時間とリアルタイムの情報 予約ルート ・学生に配布されるタブレットなどを活用する

ワークショップで出た意見

Bグループ(高城地区)

分類	“おでかけ共助交通”を地域の人々に使ってもらうための工夫を考えよう	使ってもらうための工夫・アイデアを実現するために必要なこと(もの)を考えよう
運行時間	・特別便の運行 複数人が会合(具体的には飲み会)へ出向くのに活用 柔軟な時間(例18:00発) ・予約の締切が早い ・運行時間をもう少し長くしてもらって終電を逃したときに使いたい！ex)バイトの帰り ・遅い時間でも利用できるといい ・イベント事などがあれば臨時便を出して欲しい。 ・急な雨での利用 1時間前だと利用しにくい	・深夜料金手当。・深夜料金をプラス(タクシーよりも高くない程度に)して報酬が増えるようにする ・シフト制で時間帯ごとにドライバーを募集 ・ドライバーのメリットは！アピールを ・ドライバー確保 女性の方も ・第一にドライバーの人数確保※女性ドライバーの確保 ・ドライバー確保 店舗の拡大 関金町との連携 ・様々なタイプの運転手 活動可能時間・曜日 ・時間(夜や昼の途中)など急な時にドライバーを増やす(米子や島根みたいなドライバー確保) ・時間外、指定地域外への運行への対応(タクシーの活用)運賃をおさえる。特に通院 ・ローカルな色々なコミュニティで周知
運行場所	・実際に使うとしたら、予約がスムーズにできるかな？乗りおりする時大丈夫かな(行動の不安定) ・JAや市役所などの用事 ・関金にダイレクトに行ける 行先 西倉吉+関金 ・ニコニコ、スーパー、薬局、コンビニに行きたい ・病院受診の行き、帰りで使いたい ・西倉吉の向こうまで ・関金の運行人気 ・西倉吉まで買い物に行きたい ・日中に高齢者仲間と湯命館に行きたい！ ・支払い方法が不安 ペイペイ？カード？現金？交通系IC？	・どのエリアにどれくらい利用希望者がいるか把握する(希望者の属性) ・乗降時は荷物の運搬補助を店の人と協力して行うことはできないか ・関金との連携 ・各イベントへの参加時に、乗降場所を確保し、乗降を手助けするスタッフを設ける ・店ごとに乗降場所の安全確保のための介助者も同乗する ・多くの世代に使ってもらうために支払い方法の充実

ワークショップで出た意見

Bグループ(高城地区)

分類	“おでかけ共助交通”を地域の人々に使ってもらうための工夫を考えよう	使ってもらうための工夫・アイデアを実現するために必要なこと(もの)を考えよう
運行+α	- 同乗者と楽しい話が出来たら - 移動と一緒にちょっとしたつきそいサービスがあるとうれしい - 車内のDVDを活用し、誰でも口ずさめる童謡やなつかしい歌を流し、皆で唄いながら移動する(リクエストに応える) - 車両の空はく時間団体利用を！ - 両親4～5年後免許返納 高齢者の乗り降り心配→サポーターが同行するサービス - 道が狭い場所でもなるべく近い場所に乗降場所をもうけて欲しい - 荷物を降ろしたりするときに手伝ってもらったり、何か使えるものがあると便利 - 実際に使われている姿をPR→車両のラッピング	- タクシーに自分のあいてる時間に一緒に同行してくださる人がいるとよい - 各界のルール変更 副業許可制度
その他	- 高齢者が対象となるとPRがいまひとつ 家族、地域にむけてもどんと店にもPRちらしを！ - 食事の買物支援 通院の利用 - 高城地区のイベントで送迎を！ - ドライバー不足、確保が将来課題 - 利用者の回数券があれば - 雨天時の利用、予約の簡素 - 利用者・運転者の率直な感想が閲覧できる仕組み	- ネットで募集 - 自分が協力するとしたら運転の方の同行、PR - 実現するために自治会だけでなく学校、職場など本日のような話し合いを増やす - イベント参加前後の利用対応 - 往復1,000円がお得に感じる仕組み お店が割引してくれる等 - 急な利用のためにドライバーにもすぐ連絡がつくような連絡網が必要 - 地域住民への色々なケースを想定 - 運行管理体制は？説明では9:00～16:50受付け運行だが - 運行する為と継続出来るシステム作り - 車両サイズ・乗車人数・路地に入れる

ワークショップで出た意見

Cグループ(高城地区)

分類	“おでかけ共助交通”を地域の人々に使ってもらうための工夫を考えよう	使ってもらうための工夫・アイデアを実現するために必要なこと(もの)を考えよう
予約方法	・予約時)倉吉LINE公式アカウントの下部のメニューを活用 例)「交通」分野に加える ・申込方法)スマホになれてない 他のかんたんな申込方法を検討 ・予約の仕方をシンプルに分かりやすくする ・予約方法を完全に理解できるだろうか。間違えたら恥かしいし迷惑になるかも ・1人で予約ができない人のサポート(視覚障がい、聴覚障がい)	・予約の手軽さ かんたんにできる
新たなターゲット開拓	・子育て世帯をターゲットにする(子どもの習いごと送迎、通学など) ・SNSを使った広報(インスタグラムなど) ・小学生・中学生・高校生のおためし乗車(授業の一環で)	・子ども運賃の設定 孫さんとおでかけできる ・子育て世帯が希望する目的地についての調査
車内の工夫	・車内で地域の情報やニュースを伝えてもらえたりお話を頂けたらありがたい ・車内を楽しい時間にする(BGM、カラオケ、ともだちとおしゃべり) ・車は目立つデザインに！(ラッピング) ・子や孫の絵を車内にかざる ・使いたくなる仕組み)車内で目的地のちらしを配る ・収益改善)車内で企業広告、バス、汽車の広告をイメージ	・鳥取の企業などから金銭的支援(持続可能なものにするために)
通院問題	・バス代も高いと言われる ・タクシーでは通院に往復1万円→受診控え ・送迎していたクリニックが廃業した(さくらクリニック)	・コミセンでオンライン診療(横田の医者もなくなって…)

ワークショップで出た意見

Cグループ(高城地区)

分類	“おでかけ共助交通”を地域の人々に使ってもらうための工夫を考えよう	使ってもらうための工夫・アイデアを実現するために必要なこと(もの)を考えよう
運賃	・お年寄りの方は収入が年金だけの方も多いと思うので、往復1000円は高くないかな？バスも安くないけど ・運賃統一)一番奥の上大立の料金を基準にしているので、上福田以北の住民にとっては「高い」と感じる。使いにくさにつながる	
ドライバー	・会社つとめをしている人も応募しやすいように企業への説明をする ・ドライバーの募集を目的地でもできたら	・定年退職したらドライバーとして役に立ちたい。少しでも収入になれば良い ・ドライバーへの特典(初回だけ、入浴券、サーティーワンの券など) ・呼びかけ(利用者、ドライバー) ・住民だけで集まらない場合、近隣の鳥取短大看護大からアルバイトとして募れないか 倉吉出身の鳥大生 ・ドライバーにも特点をあげる ・仕事している人も参加できる体制づくり(仕事中に抜けれる体制)
買い物	・ともだちどおしよびかけあって買い物ツアー ・使いたくなる仕組み)ポイントクエスト サービス利用、ログイン、友だち紹介、イベント参加→生活必需品、倉吉特産品、QUOカード(参考)LINEとりふる 鳥取県人口戦略課 ・自宅まで帰れるならまとまった買い物をしたい時に利用したい！ ・買い物や通院と、移動がセットになっていればよい。	・ポイントがたまったら人にお店の割引ポイントを発行する 店の宣伝にもなる ・ポイント制)ポイントがたまったらサービス特典
時間管理	・自分時間で動けない不安 急に動けない、利用できない ・自宅まで迎えに来てもらうのは助かるが、帰りに時間に間に合わなくて置いて行かれたらどうしよう ・家族が皆、用事で出払ってしまった時に市内に出かけたい時に利用したい	

分類	“おでかけ共助交通”を地域の人々に使ってもらうための工夫を考えよう	使ってもらうための工夫・アイデアを実現するために必要なこと(もの)を考えよう
口コミ おためし利用	・利用した人からの口コミが広がるように、宣伝してもらう ・クチコミが一番 運転しない人に呼び掛ける事！！すべての人に知ってもらう ・利用促進のために友達など複数人で申し込むと割引など ・利用してみてよかったら、友人等に口コミして広げたい ・参加者(利用者)身近な人からの誘い(声かけ) ・予約方法の説明会や初回無料などを実施して“おでかけ共助交通”を実際に体験してもらう ・高齢者サロンに来た人におためしで利用してもらう(自己負担なしで) ・免許をもっている方もまずは1度試してみる！(体験) ・高齢者が集まれるサロンで説明する(利用者目線で)	・学校に協力してもらい、チラシを学生に配る ・地域の有線放送を使ってのお知らせ 予約状況 ・地域の情報発信サイトや雑誌に協力してもらう(利用者の声など) ・利用者の促進 自治会ごとにまとめて申込する体制づくり
西倉吉での 待合	・目的地で滞在できる拠点があれば…。無料で「基地」でもあり避難所にもなりうる	・無料で座れて涼める場所があれば良い ・西倉から更に遠くへ行きたい時のバスの連絡は難しいか ・空き店舗を活用

住民ワークショップの発言内容の総括

① 「おでかけ共助交通」を使ってもらうための工夫

通院や買い物などの「生活のための外出」と、地域行事・温泉や飲み会に行くなどの「娯楽としての外出」の両方に利用できる交通が求められている。また、予約方法や帰宅便の利用、利用料金などへの不安が心理的なハードルになっており、体験や口コミを通じた「安心感」づくりが重要である。移動手段の提供と同時に、「気軽に利用できる」と利用者が実感できる仕組みづくりが必要である。

住民ワークショップで出た主な意見

■周知・PR

- ・（大変ですが）各公民館毎に説明会を開催
- ・実際に使われている姿をPR→車両のラッピング
- ・高齢者が対象となるとPRがいまひとつ 家族、地域にむけてもどんどん店にもPRちらしを！
- ・利用者・運転者の率直な感想が閲覧できる仕組み
- ・SNSを使った広報（インスタグラムなど）
- ・参加者（利用者）身近な人からの誘い（声かけ）
- ・予約方法の説明会や初回無料などを実施して"おでかけ共助交通"を実際に体験してもらう

■利用シーン・目的地

- ・用事に利用するだけでなく、楽しいおでかけ企画もあるとよい
- ・中学生・高校生の通学に使えるような内容に
- ・飲みに行く時
- ・JAや市役所などの用事
- ・関金にダイレクトに行ける 行先 西倉吉+関金
- ・病院受診の行き、帰りで使いたい
- ・子育て世帯をターゲットにする（子どもの習いごと送迎、通学など）
- ・自宅まで帰れるならまとまった買い物をしたい時に利用したい！
- ・地域住民があつまって会話がたくさんできる状況がほしい

■予約方法への不安・要望

- ・統合的・全体的・長期的に考えてICT化を推進することでコミュニケーションを活性化
- ・中学生はスマホを持って登校していない。学校の協力が得られないか
- ・予約の締切が早い
- ・申込方法）スマホになれてない 他のかんたんな申込方法を検討
- ・予約の仕方をシンプルに分かりやすくする
- ・予約方法を完全に理解できるだろうか。間違えたら恥かしいし迷惑になるかも
- ・1人で予約ができない人のサポート（視覚障がい、聴覚障がい）

■運行・乗合い・帰りの便への不安・要望

- ・乗り合う人数を知りたい
- ・予約の時間がどうしても調整できないとき
- ・帰れなくなった場合は？
- ・通院の所要時間が読みづらく帰りの予約が心配
- ・特別便の運行 複数人が会合（具体的には飲み会）へ出向くのに活用 柔軟な時間（例18:00発）
- ・イベント事などがあれば臨時便を出して欲しい。
- ・自宅まで迎えに来てもらうのは助かるが、帰りに時間に間に合わなくて置いて行かれたらどうしよう

■料金・特典・運営

- ・支払い方法が不安 ペイペイ？カード？現金？交通系IC？
- ・利用者の回数券があれば
- ・お年寄りの方は収入が年金だけの方も多いと思うので、往復1000円は高くないかな？バスも安くないけど
- ・使いたくなる仕組み）ポイントクエスト サービス利用、利用促進のために友達など複数人で申し込むと割引など

■車内・乗降のサービス

- ・買い物した後に運ぶのが負担に 買い物補助
- ・同乗者と楽しい話が出来たら
- ・移動と一緒にちょっとしたつきそいサービスがあると嬉しい
- ・道が狭い場所でもなるべく近い場所に乗降場所をもうけて欲しい
- ・荷物を降ろしたりするときを手伝ってもらったり、何か使えるものがあると便利
- ・車内を楽しい時間にする（BGM、カラオケ、ともだちとおしゃべり）
- ・子や孫の絵を車内にかざる

住民ワークショップの発言内容の総括

② 使ってもらうための工夫を実現するために必要なこと(もの)

「ドライバー確保」が最も重要であり、幅広い層の住民が運行業務に参加できるよう運行時間や副業規定との兼ね合いが課題となる。担い手の確保と並行して利用者の拡大も目指す必要があるため、丁寧な説明や乗車体験会の実施による地域住民の理解促進や、企業や学校等を巻き込んだ仕組みづくりが必要である。

住民ワークショップで出た主な意見

■ドライバー確保

- ・ 深夜料金をプラス(タクシーよりも高くない程度に)して報酬が増えるようにする
- ・ シフト制で時間帯ごとにドライバーを募集
- ・ ドライバーのメリットは！アピールを
- ・ ドライバー確保 女性の方も
- ・ 様々なタイプの運転手 活動可能時間・曜日
- ・ 時間(夜や昼の途中)など急な時にドライバーを増やす(米子や島根みたいなドライバー確保)
- ・ 各界のルール変更 副業許可制度
- ・ ネットで募集
- ・ 自分が協力するとしたら運転の方の同行、PR
- ・ 急な利用のためにドライバーにもすぐ連絡がつくような連絡網が必要
- ・ 定年退職したらドライバーとして役に立ちたい。少しでも収入になれば良い
- ・ ドライバーへの特典(初回だけ、入浴券、サーティーワンの券など)
- ・ 住民だけで集まらない場合、近隣の鳥取短大看護大からアルバイトとして募れないか 倉吉出身の鳥大生
- ・ 仕事している人も参加できる体制づくり(仕事に抜ける体制)

■理解促進・周知・ニーズ把握

- ・ 先行事例の「視察会」実際に利用してみる(体験)
- ・ 地区単位で日にちを分けて体験してもらう
- ・ 自治会単位くらいでの丁寧な説明や話し合い
- ・ 市役所主催の「住民説明会」
- ・ 地域の理解と協力 協力者を多くつくる事
- ・ ローカルな色々なコミュニティで周知
- ・ 実現するために自治会だけでなく学校、職場など本日のような話し合いを増やす
- ・ 学校に協力してもらい、チラシを学生に配る
- ・ 子育て世帯が希望する目的地についての調査
- ・ 地域の情報発信サイトや雑誌に協力してもらう(利用者の声など)

■予約・情報システム・運行体制

- ・ LINEを使った予約
- ・ 現在の予約状況がみられるようにする
- ・ 予測時間とリアルタイムの情報 予約ルート
- ・ 学生に配布されるタブレットなどを活用する
- ・ 時間外、指定地域外への運行への対応(タクシーの活用)運賃をおさえる。特に通院
- ・ 地域住民への色々なケースを想定
- ・ 予約の手軽さ かんたんにできる
- ・ 西倉から更に遠くへ行きたい時のバスの連絡は難しいか

■学校・店舗・企業・地域との連携

- ・ 短大と協力
- ・ (帰り)中学校・高校に協力してもらい、生徒が予約できる体制を作ってもらう
- ・ 乗降時は荷物の運搬補助を店の人と協力して行うことはできないか
- ・ 関金との連携
- ・ 往復1,000円がお得に感じる仕組み お店が割引してくれる等
- ・ コミセンでオンライン診療(横田の医者もなくなって...)
- ・ ポイント制)ポイントがたまったらサービス特典

■利用しやすさ・乗降支援・拠点

- ・ 時間外、指定地域外への運行への対応(タクシーの活用)
- ・ 運賃をおさえる。特に通院
- ・ 車両サイズ・乗車人数・路地に入れる
- ・ 多くの世代に使ってもらうために支払い方法の充実
- ・ 子ども運賃の設定 孫さんとおでかけできる
- ・ 店ごとに乗降場所の安全確保のための介助者も同乗する
- ・ 利用者の促進 自治会ごとにまとめて申込する体制づくり
- ・ 無料で座れて涼める場所があれば良い

ワークショップ参加者アンケート

参加理由

- 参加者の参加理由は、「個人の将来不安」、「地域課題への関心」と「立場上の責任」に大別される。地域課題解決への関心が最大の動機となっているが、自治会協議会や運行主体の「公的組織の関係者として」の参加も多い。

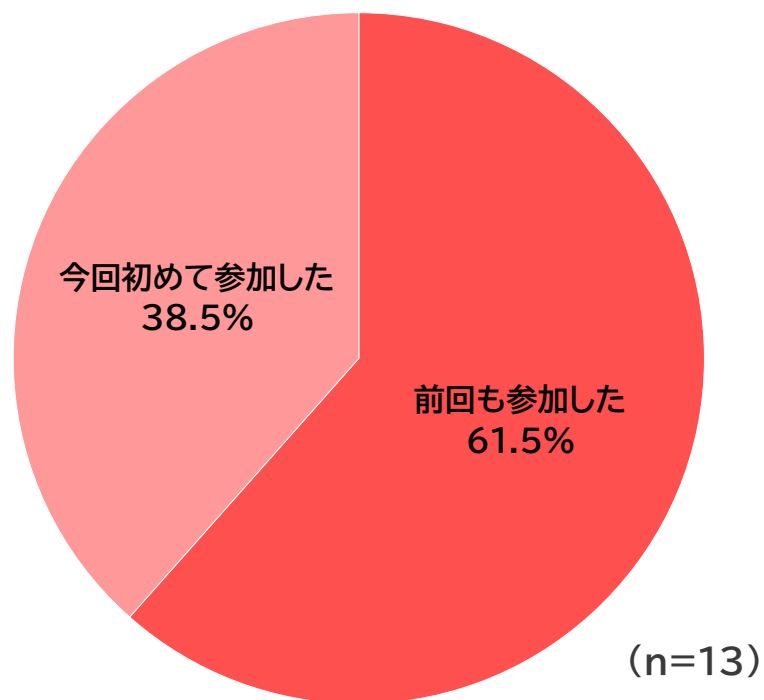
<参加した理由> *自由記述

- ・ 地域活性化のなかの一分野であり、関心があったので
- ・ 地区の問題として考えて見ようと思ったから
- ・ 参加依頼があったから
- ・ 自治会協議会長として
- ・ 運行主体側として住民の考え方をききたい
- ・ 市社協の高城地区担当として
- ・ 運転弱者なので、大切なワークショップだと思った
- ・ 今後の地区内の生活に係る交通を考えたい
- ・ 仕事上案内をいただいたが、地域住民としても興味があった
- ・ 車の運転ができなくなった時が不安
- ・ 現状を理解したいということ
- ・ 共助しあえる地区をどのように構築して行けるのか。今後の地域の方向性を考えるにあたり、勉強したかった。

ワークショップ参加者アンケート

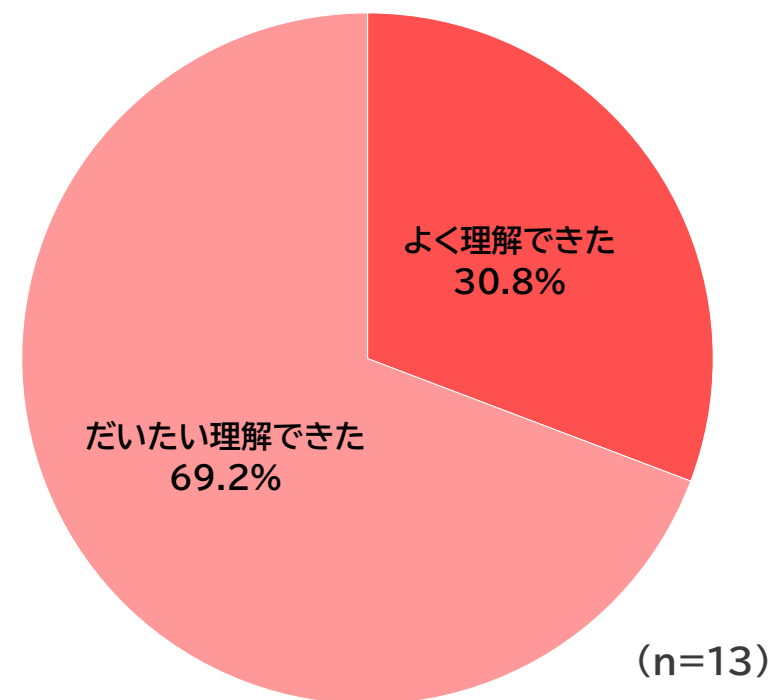
第1回ワークショップの参加状況

- 参加者の約4割が「今回初めて参加した」と回答



実証運行案の理解度

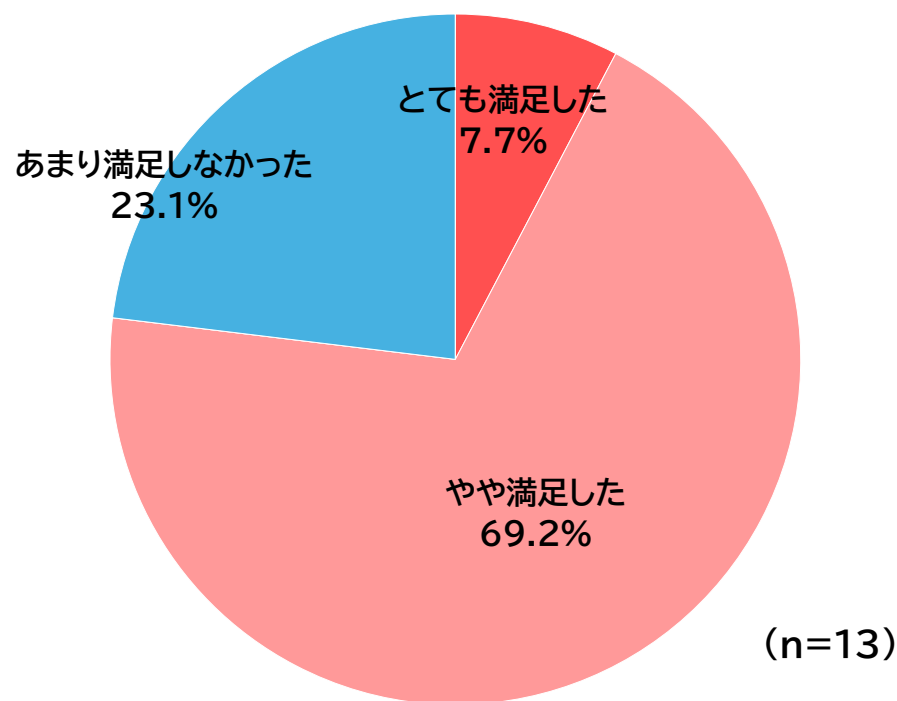
- 全員が「よく理解できた」または「だいたい理解できた」と回答



ワークショップ参加者アンケート

第2回住民ワークショップの満足度

- 参加者の約8割が、住民ワークショップの満足度について「とても満足した」または「やや満足した」と回答



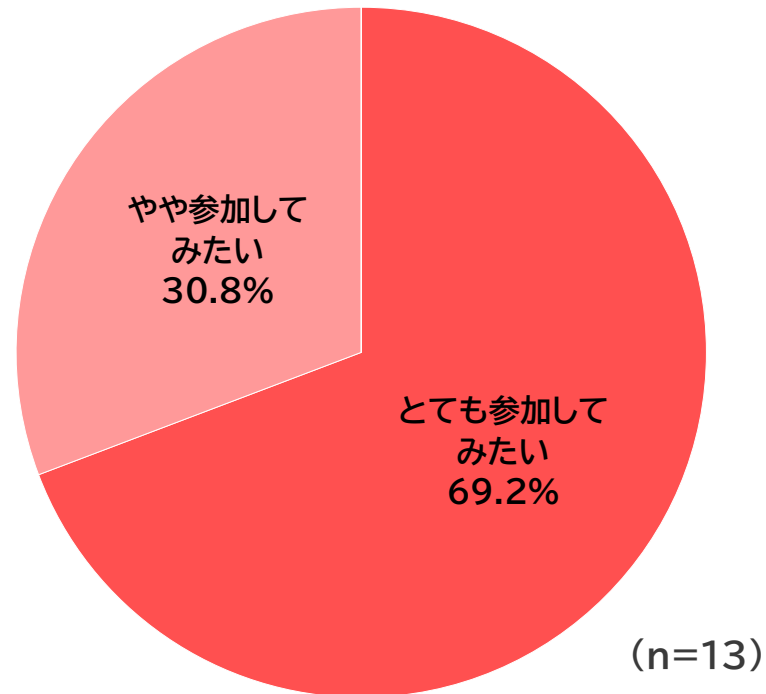
<理由> *自由記述

- ◆ 「やや満足した」と回答した理由
 - 様々な考え方や視点がありとても参考になった
- ◆ 「あまり満足しなかった」と回答した理由
 - いつも思うのですが、時間の制約などもあるからですが、“アリバイ作り”のような感じがぬぐいきれない。
 - 住民参加者が少ない
 - もっとたくさんの住民に参加してほしい

ワークショップ参加者アンケート

住民ワークショップ等への今後の参加意向

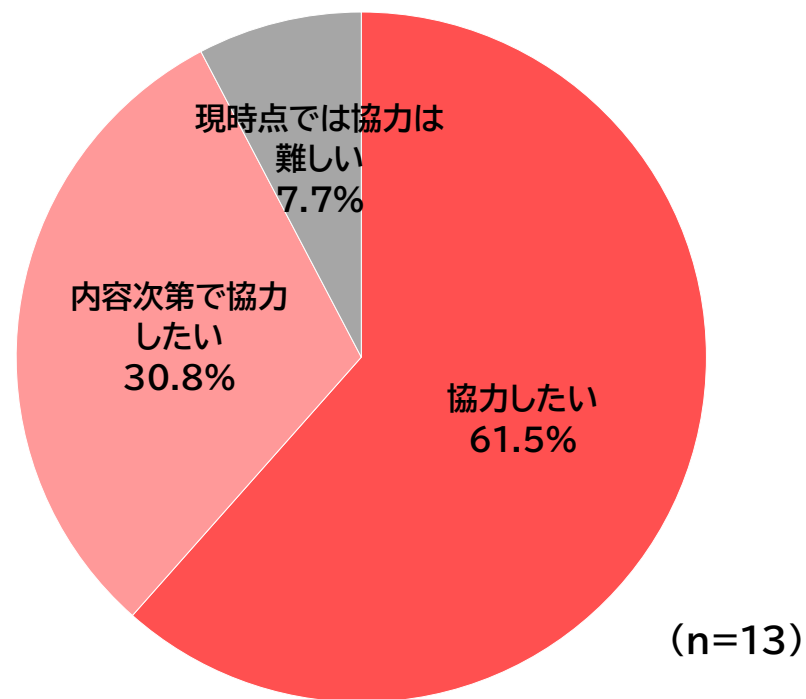
- 全員が、今後の住民ワークショップについて「とても参加してみたい」または「やや参加してみたい」と回答



ワークショップ参加者アンケート

第2回住民ワークショップに参加したことによる意識の変容

- 参加者の約9割が、令和9年1月からの実証運行に自分のできる範囲で「協力したい」または「内容次第で協力したい」と回答



ワークショップ参加者アンケート

自由記述(感想や要望等)

- 他分野との連携を含めて、総合的にICT化をすすめ、その上で地域住民間の交流を活性化できるようにしてほしい。
- 運行主体側として課題、現実的な運行とは？
- 鳥大生参加が、とても良かったです。今後もよろしくお願い致します